

会議録

会議の名称	平成30年度 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議(第2回)
開催日時	平成30年12月25日(火) 午後2時～午後3時50分
開催場所	清須市役所 北館2階 第1・第2会議室
議題	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2020(骨子案)について</p> <p>4 閉会</p>
会議資料	<p>会議次第、委員名簿、配席図</p> <p>[会議資料]</p> <p>資料1 清須市第2次総合計画(後期基本計画)の策定のながれ</p> <p>資料2 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2020(骨子案)</p> <p>資料3 市民参画会議(第2回)結果報告</p> <p>資料4 市民参画会議(第3回)結果報告</p> <p>資料5 地方創生に係る特徴的な取組事例 抜粋(内閣府地方創生推進事務局)</p> <p>資料6 地方創生事例集 抜粋(平成29年1月 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局)</p> <p>資料7 稼げるまちづくり取組事例集 抜粋(平成29年3月 内閣府地方創生推進事務局)</p> <p>資料8 平成30年度 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議(第1回)における主な意見</p>
公開・非公開の別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	水谷委員(座長)、福井委員、名倉委員、中田委員、小川委員、浅井委員、牧野委員、高山委員
欠席委員	なし
出席者(市)	宮崎企画部長
事務局	<p>[企画部企画政策課]</p> <p>河口企画部次長兼課長、藏城課長補佐、服部課長補佐兼企画政策係長、石附主査、服部主事</p>
会議録署名委員	中田委員、小川委員

1 開会

(河口企画部次長兼企画政策課長)

定刻となりましたので、ただいまから平成30年度の第2回清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開催いたします。

皆様には年末の大変お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

私は、企画部企画政策課長の河口と申します。よろしくお願いいたします。

はじめに、会議の開催にあたりまして、宮崎企画部長からごあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

(宮崎企画部長)

皆様こんにちは。企画部長の宮崎でございます。

日頃より市政各般にわたり、ご理解、ご協力を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。

先ほど司会からお話がありましたように、年末の大変お忙しい中、総合戦略推進会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、本市では平成32年度から始まる第2次総合計画の後期基本計画とあわせて、今年度から一体的に次期総合戦略の策定を進めているところでございます。

10月に開催いたしました第1回の会議では、委員の皆様には策定の考え方などについてご協議をいただいたところでございますが、本日は次期総合戦略の骨子案についてご協議をいただきたいと考えております。

また、12月1日現在、本市の人口は69,000人を超えるなど、これまでの取組による成果が着実に現れてきていると思われまます。

将来の状況を見据えて、今後も持続的なまちの発展を実現するために、次期総合戦略では新たな三つの基本目標を定めていきたいと考えております。

委員の皆様には、それぞれのお立場、視点で活発なご意見をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、私からのあいさつとさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

(河口企画部次長兼企画政策課長)

それでは、ここからの会議の取り回しにつきましては水谷座長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(水谷座長)

皆様、こんにちは。本日もよろしくお願いいたします。

それでははじめに、本日の会議の会議録署名委員の指名をさせていただきたいと思
います。名簿の順ですけれども、中田委員と小川委員にお願いをしたいと思います。
よろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。

次に、議事に入る前に次期まち・ひと・しごと創生総合戦略を含めた第2次総合計
画の後期基本計画の策定のながれについて確認をしたいと思しますので、事務局から
説明をお願いいたします。

(石附企画政策課主査)

【資料1を説明】

(水谷座長)

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、委員の皆様、ご意見やご
質問等はいかがでしょう。ちょっとややこしいところですね。確認ですけれども、
総合計画審議会というのが動いていて、これから後期の総合計画を作っていこうとい
う段階であり、前期のほうが1年半ほど経ちましたので、その振り返り、評価と、今
後後期をどうしていくのかという議論があります。後期の計画を見直して作り直すに
あたり、私たちのまち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議という、こちらで人口減
少とか地域活性化の視点から、どこに注力していくのかということ議論したい、と
いうことかなと思えます。

市民参画会議のほうで市民の皆様の意見をたくさんお聞きして、今日ご説明いた
だく基本目標等を事務局で作成していただいたのですが、私も参加をさせていただ
いたのですけれども、市民の皆様ですとやはり市民目線ですので、率直なご意見をいた
だけます。それとともに、経済的な観点が弱いことと、組織との協働という観点がや
はり乖離があるというのか、日常生活では乖離がある。そのようなところを感じまし
たので、今日はその部分についてもご意見いただければと思っております。

このように進めるということではよろしいでしょうか。ありがとうございます。

3 議事 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2020(骨子案)について

(水谷座長)

それでは、議事に移ります。

本日の議事は一つということですが、皆様からのご意見はゆっくり丁寧に伺って
いきたいと思しますので、少しずつ区切っていきたいと思えます。

まず、清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2020(骨子案)について、資料2
から資料8までを一括して事務局からご説明お願いいたします。

(石附企画政策課主査)

【資料2～資料8を説明】

(水谷座長)

ありがとうございました。ただいま事務局から、総合戦略 2020 の骨子案等についてご説明をいただきました。

まず、骨子案の中では三つの基本目標、それが達成されているかどうかを測定するための数値目標がそれぞれあるということですね。その三つの基本目標それぞれに、達成に向けた取組に関する基本的方向というものがあります。今後、第 2 次総合計画の後期基本計画の策定作業とあわせて内容を検討していく具体的な取組と、その成果を測定するための重要業績評価指標、K P I というものを定めていくということですが、それに関しては今後内容を検討しますということですね。ですので、ここの内容についてもいただけるとありがたいなということですね。

そして、三つの基本目標の中身につきましては、後ほど一つ一つ確認をして、議論していきたいと思っておりますので、最初は 1 ページ目の「1 策定の基本的な考え方」、これがかっこの 1 からかっこの 3 があり、「2 基本目標」の「基本目標の考え方」、そして 2 ページ目に入っていて図と写真があるところまで、ここの「1 策定の基本的な考え方」と「2 基本目標」についてご意見をいただければと思います。ご質問でも結構です。いかがでしょうか。

(中田委員)

確認ですけれども、基本目標が三つあるのですけれども、前回の会議の時には素案ということで三つの基本目標があったと思うのですけれども、前回の素案では基本目標①の「若い世代の定住を促進する」ということでしたが、これが今回は「定住する若い世代をふやす」ということで、より具体的な目標になったと感じます。

それから、前回の基本目標②の「地域の稼ぐ力を高める」、基本目標③の「地域資源をネットワーク化して活用する」という目標も含めてなのかもしれませんが、今回は基本目標の②で「市の『強み』を生かして経済効果を生む」ということで、より具体的な目標になったのかなという気がするのですけれども、基本目標③の「人を育て・つなげて地域を活性化する」という目標が、いきなり出てきたような感じがするものですから、そのあたりがどういう経緯なのかを説明していただけないでしょうか。

(水谷座長)

経緯の確認ということですね。以前から目標が変わっている部分について、どうしてそのように変更いただいたのかということについて事務局からご説明をお願いいたします。

(石附企画政策課主査)

中田委員からご質問のあった点でございますが、前回、第1回目の会議では、総合戦略の基本目標の素案として「若い世代の定住を促進する」「地域の稼ぐ力を高める」「地域資源をネットワーク化して活用する」、この三つの基本目標を素案としてお示しをしていたところです。その後、第2回、第3回の市民参画会議の中で市民の皆様から生活に根ざした意見をいただく中で、またそれとあわせて第1回目のこの会議で、言葉が分かりにくいという、そういったご意見をいただいたところもありまして、ベースとしては大きく変わっていないというところではあります、その辺りを念頭に置いて、再度検討をすることといたしました。

その中で、資料の2ページ目をご覧くださいまして、総合戦略2020の基本目標のイメージでございますが、まち・ひと・しごと創生では、それらの一体的な推進ということが非常に大事であるということ、市民参画会議を通じて我々もすごく感じるところでございます。そういった点を踏まえて、基本目標①の「定住する若い世代をふやす」という目標は、素案から少し言葉を柔らかくしたというところはあるのですけれども、若い世代の方に定住していただくという大きな方向性は変わっていません。基本目標③は、前回の素案では「地域資源をネットワーク化して活用する」ということで、前回イメージしていたことも、色々な地域資源、人だけではなく組織であったり、そういうこともネットワーク化することが重要だという切り口で考えていたのですけれども、その前提になるのはやはり人であろうということ、これを改めて認識したところでありまして、「人を育て・つなげる」ということで、若い世代の方に住んでいただいて、加えて今既に住んでいる方ももちろんですけれども、その人たちがつながるということがまず大切ではないか、そういう認識に立って少し言葉を変えさせていただいたところがございます。

そして、基本目標②の「地域の稼ぐ力を高める」という目標につきましては、こちら言葉が少し分かりにくいという部分があって、「経済効果を生む」という直接的な表現に変えたというところがございます。またそのためには、市の強みを生かしているという方向性が重要ということで言葉を変えたというところがございます。

具体的なお答えにはなっていないかもしれませんが、このような形をお願いしたいと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。地域資源をネットワーク化するところが、基本目標②の「稼ぐ力」、経済的な効果のところと若干かぶるところもあったので、「人を育てる」という三つ目と、市の強み、それは清洲城をはじめ歴史、文化等々を生かして、生かすだけではなくて、それらから経済効果を生むというところまでいきたいという、その力強いアピールをここでしているということかなと思います。

中田委員、いかがでしょうか。よろしかったですか。

(中田委員)

基本目標の①、②と比べると、③の「人を育て・つなげて地域を活性化する」という目標が分かりにくかったですし、これは後の議論になるかもしれませんが、4ページを読んでいても今一つ漠然としているという感じがしたものですから、また後でお願いします。

(水谷座長)

ありがとうございます。大事な議論の論点になるかと思います。他の方、いかがでしょうか。中身の議論に入った方が良さそうかなと思いますけれども、それでは「1 策定の基本的な考え方」「2 基本目標」まではよろしいですかね。ありがとうございます。

では、三つの基本目標について中身の議論に移っていきたいと思います。2ページの「3 基本目標の実現に向けた取組」のところですか。事務局の説明にもありまして、今後内容の検討を進めていくにあたって、具体的な取組とそれを測定する重要評価指標、K P Iについても幅広くご意見をいただければと思います。

まず、基本目標①「定住する若い世代をふやす」という目標について、この目標はどのようなか、目標を達成しているかを測る数値目標はどのようなか、取組に関する基本的な方向はどのようなか、そして今後検討していく具体的な取組と重要業績評価指標について、ご意見、ご質問をいただくと助かります。それではお願いします。

(高山委員)

高山でございます。私も51歳なのですが、20代から40代まで、私の同級生なんかでもまだP T Aの役員をやっている人がおりますが、子育てと連動した感じで「若い世代」という言葉になっているのかなと思いますけれども、40代で切っているのかなと思いました。

(水谷座長)

大事なポイントかと思います。皆様にお聞きしたいと思います。実際、市民参画会議では、最初は20代から30代と書いていたのですが、中に40代のメンバーもたくさんいましたので、40代も入れて欲しいみたいな話がありまして、今日は50代ということも議論に上げていただいたのですが、皆様いかがでしょうか。ここの年齢をどういうふうにか考えるか。基本目標①の数値目標のところですか。

(福井委員)

キリンビールの福井でございます。私は、逆にいうと20代から30代くらいが「若い世代」なのかなと思っています。余談になりますけれども、手前どもの工場で見学のターゲットとする世代を20代から30代、イコール若い世代、次の時代にアル

コール文化を伝えていただきたい世代という感じで設定していきまして、40代ですと、これはアルコールに限った話かもしれないのですが、アルコールが好き過ぎてみたいな感じになってしまう傾向もあるので、初心者も含めて20代から30代が「若い世代」というようなことで定義しております。40代を含めると若干レンジ的には上なのかなと率直な感想として思いました。以上です。

(水谷座長)

ありがとうございます。難しいところでございますね。他の皆様いかがでしょうか。小川委員、すみませんが先生の観点からというのか、学生さんはもっと若いと思えますけれども、若い人たちの定住を促進するといった時に20代から30代、40代、50代とかがでしょうか。

(小川委員)

私どもの職場では40代でもほとんどの者がまだ結婚してなくて、これから結婚する人も多々おりますので、40代もわたくし的には含めても良いかなと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。これはどうでしょうか。

(石附企画政策課主査)

今、皆様からご意見をいただく中で、当初市民参画会議の中でも議論になったのですが、市としましては福井委員がおっしゃったように20代、30代ということで、ターゲットをより絞ったほうが施策の効果が出やすいのではないかとという観点は、当初考えていたところでございます。

また感覚的な問題かもしれないのですが、40代になってくると自分で家を持たれて定住するというのが、また選び直すという方も若干少なくなってくるのではないかとということもありまして、移り住んでもらうという点においては40代というところがどうなのかなというのは、感覚的に思ったところがございます。

それに加えて、今住んでいる子どもさんたちが外に出ていかないように、若い世代に清須市に住み続けたいと思っていただけるように、教育であったりそういう部分も大事にしていきたい、その二つの方向かなと考えております。

(水谷座長)

ありがとうございます。数値目標として、うまくいっているのかどうなのかを測るという意味では、20代、30代、そして落ち着いた40代くらいを見るのが指標として見やすいのではないかとこのところかと思いますが、いかがでしょうか。高山委員、よろしいですか。

(高山委員)

ありがとうございます。ちなみに分かれば結構なのですが、1ページの人口総数自体は平成37年にかけて上がっていくという中で、20代から40代の合計数は逆に減っていきますよという理解でよろしいですか。

(石附企画政策課主査)

高山委員のおっしゃるとおりでございます。2045年には老年人口、65歳以上の方の人口の比率が約3割まで上がるということで、数としても増えてくるということになってまいります。ですので、差し引きで人口規模はおおむね維持されていくのですけれども、その中身が大きく変わっていくというのが今後見込まれる傾向でございます。

(水谷座長)

ありがとうございます。他の点についていかがでしょうか。

(牧野委員)

先日、国会等々でもありました入管法が今後変わっていくだろうといったところで、外国人の方の受け入れとか、私は岩倉のほうに住んでいるのですが、病院に行くと、その地域に多い方の言葉を話すことができる看護師さんとか、そういった貼り紙などがいっぱい貼ってあるんですね。そういったことも含めて、清須市在住の方で海外から受け入れている方がどれくらいいるのか分からないのですけれども、今後そういった方が増えてくれば、各企業さんにとっても労働力人口が減ってくる中で、そういった方々も労働力の一つとして今後増えてくるだろうと思うのですが、そういった対策も含め、今回この目標に入っている部分については、今現在住まわれている方、今後清須市を訪れる方、ともに多分日本人の方を想定して策定されていると思うのですけれども、時代背景が変わってくる中でこういった部分も取り込めるとすれば、定住化ということも少しずつは見られるのではないかと思うのですが、そういったことがどうなのかというところをお伺いしたいです。

(水谷座長)

ありがとうございます。外国人の方の定住化について、お願いします。

(石附企画政策課主査)

すみません、今手元に具体的な数字は持ってはいないのですが、前回の会議資料の中にございました人口の増減等を調べている中で、市民全体に占める外国人の方の割合を他市の状況との比較も含めて見ていたところでは、清須市の人口の中にお

ける外国人の方の割合は県内でもあまり高くない状況にあると思います。近隣で見ますと、小牧市さんであったり、少し遠いところだと豊田市さんとか、豊橋市さんなどと比べるとかなり割合としては低い状況にあるという認識をしております。

入管法の関係もございますので、今後そういった方たちも増えてくるのかなということは念頭にあるのですが、地方創生の取組の中でも、山村などで特に一次産業の担い手とかそういった部分では、外国人の方たちに来ていただいてという施策を打っている市町村さんもあるということは存じ上げておりますが、清須市においては今後どうしていこうということで、まだ具体の検討には入っていない状況というところでございます。

ただ、経済効果を生むという部分では、2020年の東京オリンピックや、その先のアジア大会も見据えまして、インバウンドの方たちを少し念頭に置いているところでございますし、そういったことは考えていかなければいけないという認識をしています。以上でございます。

(水谷座長)

ありがとうございます。大事な視点ですよ。人口が減っていくという一方で、外国人の方が増えていくであろうということです。名古屋市や他の豊田市さん等々のお話をお聞きしても、外国人の方が定住される、住まわれることで地域の方々との問題も起きてきているようですし、学校でも言葉の問題で結構ご苦労されているとお聞きしました。実際外国人の方がどこに、どれくらい住んでいらっしゃるのかということ把握はされていらっしゃるのでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。市内でどれくらいの方がみえるのか、割合を把握することは可能です。

(水谷座長)

ありがとうございます。地域防災の観点などでは外国人の方、結構難しいなという話をお聞きしたりします。外国人の方の定住化というのは、清須市さんとしては今はまだ検討されていないということですかね。皆さんどうでしょうか、これから検討していったほうが良いという感じでしょうか。福井委員どうでしょうか、工場のほうでは外国人の方は多いのでしょうか。

(福井委員)

今のところは、全くいないですけれども、今後のことを考えると検討していかなくてはいけないのかなとは考えています。

(水谷座長)

ありがとうございます。どうでしょうか、視点としては新たな視点をいただいたという感じですが、

(石附企画政策課主査)

そうですね。あまり想定には入っていない部分ですが、確かに福井委員がおっしゃるように今後必ず必要なことだと思いますので、一度検討させていただきたいと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。基本目標①の「定住する若い世代をふやす」に入れるのか、それとも経済効果のところで考えるのか。その辺りも含めて検討をお願いいたします。他はいかがでしょうか。

(中田委員)

質問ですが、数値目標には基準値があって目標値がありますので、毎年これを検証していくということだと思いますが、例えば20歳代から40歳代の人口数ということで、基準値が平成27年、2015年の数値ということで、3年前の数値ですが、毎年毎年数値を把握して検証することが可能なのかということをお聞きしたいです。

それから次に、市民満足度調査を平成31年2月にやりますよということですが、これも毎年アンケート調査をやって検証していくのかということをお聞きしたいです。

(石附企画政策課主査)

確かにそこはすごく大事な部分だと思っていて、2ページの右上のグラフは平成27年の国勢調査をベースにした推計ですが、今ご意見をいただいて少し考えなくてはならないのかなと私も思っていて、住民基本台帳による人口数、こちらは毎年測定することができますが、それと国勢調査の人口には若干差異がございますので、その辺りをどう整理していくのかについては一度考えていきたいと思っています。

また、アンケート調査ですが、総合計画とも関連してくるのですが、清須市では2年又は3年に1回、市民満足度調査を実施して、施策の満足度と重要度を測定するという中心にやっているので、前回の調査から施策に関連する市民の生活実感であったり、市民の認知度であったり、そういったこともあわせて聞いております。その中にこの項目を加えて、経年で聞いていくことによって数値を取っていきたいと考えております。

(水谷座長)

ありがとうございます。人口数のほうは、ほぼリアルタイムで分かるということですね。

(石附企画政策課主査)

そうですね。リアルタイムで分かりますが、目標値の設定などをどう整理していくのか、その辺りについては一度考えていきたいと思います。

(水谷座長)

審議会が最終的に終わるのが平成 31 年 11 月、来年ですので、また数値は変わってくるのかなというところですね。ありがとうございます。他にいかがですか。

(牧野委員)

子育てといったところに着眼点が置いてあるのですけれども、旧の西枇杷島庁舎のところにまだ住宅が建っていると思うのですが、もう一世代前のこれから結婚しようとか、もっと若い世代が、安い賃料でそういった市の施設というのか、そういった住宅に入れるとなると、財政との兼ね合いもあるのですけれども、子育ては次のステップとしてもその前段として、そういった若い世代が安い賃料で住宅に入ることができるというところにも一歩踏み込むと、そこから子育てという部分も見えてくるのかなと思いました。あそこはかなり老朽化しているという話は聞いていますし、今後そういった部分も含めた検討があるのかどうか、分かれば教えて欲しいです。

(水谷座長)

ありがとうございます。子育て世代よりももっと若い世代の方々が住む場所を提供してはどうかということですが、いかがでしょうか。

(石附企画政策課主査)

今ご意見いただいた部分で、市ではこれまで住宅行政という部分では、市が担うという施策はあまり行っていないということがまず現状でございます。確かに委員がおっしゃるお話は分かるのですけれども、そこも市の強みの一つとしまして、名古屋市内と比較して賃料が比較的安いという現状があって、民間事業者の供給も一定程度あるのかなというところで認識しておりまして、そういうところを生かして何かしら発信などができたらという部分が一つあります。

あとは、話が飛躍してしまうかもしれないのですけれども、今国のほうでは、先週、予算の閣議決定などが終わりました。その中で地方創生の取組として東京から移り住む方に給付金を出そうというような施策も始まろうとしているところでして、そういうところもあわせて検討していけたらと考えております。

(水谷座長)

ありがとうございます。もう少し若い世代の話、小川委員からもコメントをいただきたいと思うのですが、若い方々が清須市に住む、どういったところが良いのか、また市としてどういう住宅を提供していったら学生たちに喜ばれそうなのか、卒業後も喜ばれそうなのか。その辺りいかがでしょうか。

(小川委員)

若い人がそれで定住するかどうかというと、少し難しいのかなと思います。やはり結婚してからなのかなと感じています。

そうすると幼児教育から初等、中等教育までの教育の充実、親が何を見てそこに引っ越してくるのかということ、市におカネがあるかとか、教育が充実しているかとか、そういったところを親は調べますので、なかなか若い世代でここが良いからということですとそこに居続けるというのは難しいのかなと思います。

(水谷座長)

なるほど。ありがとうございます。住宅よりも、もしかしたら教育のほうかもしれないということですね。若い世代の方、10代、20代前半の方がそこに住んでいることで、そのまちを知って、気に入るという、そういった面では効果はありそうですかね。ありがとうございます。

(高山委員)

高山でございます。先ほど市民満足度調査のアンケートの話が出たのでお伺いしたいのですが、資料4の4ページ目の上段に20代から30代という幅で若い世代をとらえるのではなく、現役子育て世代という枠組みに限定して調査したらどうかという意見が挙がっているのですが、これは技術的に、実際に子育てをしている人だけをピックアップした聞き方もできないことはないのだろうと思うのですが、色々な切り口でアンケート結果を見ていければ、それに越したことはないのだろうと思うのですが、いかがでしょうか。

(水谷座長)

ありがとうございます。アンケートの仕方、調査の仕方、20代から30代というふう限定する、現役の子育て世代ということで抽出できるかということですが、いかがでしょうか。

(石附企画政策課主査)

今行っているアンケートの設計としましては、年齢は何歳代ですかとか、居住地域がどの地区ですかということなどは属性としてお聞きしているのですが、高山

委員が言われた子育て世代かどうかということは属性としては聞いていない状況です。アンケートは年明け2月の実施を予定しているのですが、その中で属性として加えていくということは可能ではありますので、ただ設問数が多くなってしまうとなかなか答えていただけないということもありますので、その辺りの兼ね合いで、対象としては3,000人の市民の方を無作為で抽出いたしますけれども、その中で属性を取って行って、それでクロスで集計をかけていくということは可能ですので、一度その辺りも考えさせていただきたいと思っております。

(水谷座長)

ありがとうございます。現役子育て世代というのはどういう定義になりますかね。

(高山委員)

市民参画会議ではそう書いてあったのですがけれども、私としては、実際に子育てしている人だけをピックアップできないかなという趣旨でお話させていただきました。

(水谷座長)

なるほど。よろしいでしょうか。

(石附企画政策課主査)

例えば20歳以下のお子さんがあるかどうかという切り口は可能かなと思います。

(水谷座長)

なるほど。ちょっと具体的に見えてきましたね。ありがとうございます。ご検討いただくということで、よろしくお願いします。他にいかがですか。

(福井委員)

3点ほどありまして、一つ目は、先ほどの若い世代が定住するということですので、これは私の意見ですけれども医療費の問題があるのかなと思っています。清須市の実態は把握していませんが、私自宅が東京の江戸川区というところにあるのですが、そこは子供の医療費が中学校まで無料ということで、結構他の区から流入してくる若い世代が多いのですね。ですので、一つそういうことを感じましたということで、意見というか感想になります。

二つ目は、「取組に関する基本的方向」の中の三つ目ですけれども、ここには防災などのことが書かれているのですが、「若い世代の方のニーズに応じた情報発信」と書いてありますが、これは具体的にイメージが湧かなかったので、何ですかということをお教えいただきたいです。

また、最後にその下のシビックプライドの醸成のところ、「幼少期から市の歴史や

魅力を知ってもらうための取組を推進します」とあるのですけれども、これは対象としてはいわゆる小さいお子さんとか、例えば小学生、中学生くらいまでの方を対象にして言っているのか、それとも広く、ここで言っている20代から40代くらいまでの、いわゆる子育てをされている親御さんも対象にして言っているのかといったようなところですね、この辺りをお聞かせください。

(水谷座長)

ありがとうございます。質問ということですが、よろしいでしょうか。医療費の観点、そして情報発信の観点、また誰を対象としたシビックプライドの醸成なのかということで、よろしくをお願いします。

(石附企画政策課主査)

まず一つ目の医療費のことですが、本市におきましても中学校の卒業まで入通院は無料ということでやっております。これは、確かに基本的方向の中にそういうことがあっても良いのかなとは思いますが、実は愛知県内、全国的にも比較的財政力が豊かな団体が多いということもありまして、この辺りの地域ではほぼこの市町村もやっているという現状があります。その中で、差別化を図るためにそこをあらためて打ち出すという感覚はあまりないのかなというところで、県外の方ですと「そうなんだ」というのはあるのかもしれないのですけれども、そういう意図で今回はあえて特出しはしていない状況でございます。

次に「若い世代の方のニーズに応じた情報発信」でございますけれども、こちらは具体的には当地域が東海豪雨を経験している地域だということもありまして、洪水に対しての防災マップ、ハザードマップというものを本市では作ってしまして、それをかなり丁寧に作っているというところでは特徴的な取組をしているのですけれども、それを全戸配布して、皆さんがいつでも使えるようなところに置いていただきたいということを発信しているのですけれども、その情報がもう少し簡単に、例えばスマホで取れたり、あとは具体的に実現していけるかどうかという部分はありますが、SNS等を使った情報の発信ですとか、そういうことがもしできれば、若い方たちも情報が取りやすいのかなというところを想定しているところでございます。

最後に三つ目ですけれども、現時点で想定しているのは小中学生、義務教育の子たちを中心にした取組になってくると思うのですけれども、ただ、二つ目の基本目標にも関わってくるかと思うのですけれども、前回の第1回の会議で、企業さんから協賛を募って史跡に立て看板を置いたらどうかとか、そういった取組もこの辺りに絡んでくるのかなというところもありまして、そういう部分では少し上の世代の方たちにも通じる取組にはなってくるのかなと考えております。

(水谷座長)

ありがとうございます。今、福井委員からのご意見を聞いて思いついたことで申し訳ないのですが、定住を促進するという事は、外から来ていただく方に対して、中に住んでいる方に対して、清須市の良さをより分かっていただくために、医療費が外ではかかっているけれども愛知県内、清須市はかかっていないよというようなことが分かったら、住んでいる方も「清須市はやはり良いまちだな」ということが分かるのかなというふうに思いました。

その辺り、情報発信を若い方にしていくということですが、清須市の皆さんが知っているようなことでも「実はこういう良いところがある」ということを発信していくというのも大事なのかなと思いました。

それではそろそろ基本目標②にいきたいのですが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

では、基本目標②「市の『強み』を生かして経済効果を生む」に移ります。

ご意見、ご質問等よろしくお願ひいたします。市民参画会議では市民目線、生活目線での議論でしたので、特にこの部分は皆様方にご意見をいただけるとありがたいなと思っております。名倉委員、いかがでしょうか。

(名倉委員)

商工会事務局長の名倉です。よろしくお願いします。

前回の会議の時にも、商工会というより清須市内の商工業者数ですとか小規模事業者数などの減少がなかなか止まらないというようなお話をさせていただいたかと思うのですが、今回資料としてご提出いただいた創業比率ですとか事業所数、また事業所に従事する人数なども目標数値を掲げていただいて、一つの基準ができたのではないかなというふうに思っております。ありがとうございます。

また、創業比率だけではなく、事業所数も愛知県の中では中間くらいの位置というようなことと、従業者数も愛知県の中では中間の位置にあるというようなことがよく分かったと思います。

また、産業分類でも以前お話をさせていただいたのですが、清須市は製造業ですとか卸売業、小売業も多いのですが、飲食業やサービス業は比較的少ない状況にあるのかなというように感じであると受け止めました。

基本目標②の「市の『強み』を生かして経済効果を生む」ということで、市の強みというと清洲城ですとか朝日遺跡、そういったものが挙げられると思うのですが、清洲城ですとか朝日遺跡の周辺を見ると、現状ではなかなか観光に来ていただいた方が実際におカネを落とすような施設ですとか、飲食店ですとか、小売店が現実的になかなかないというようなところがあります。こうした中で商工会も努力はしているのですが、地域一体でそういう開発をするなど、大きな活動というのか、そういう取組とまではいかななくても、少しずつ清須市に観光などで来ていただいた方におカネを落とすような、そういった取組を市役所さんとしても

進めていただけると、商工会としても側面的にバックアップができるのかなというふうに思っております。

(水谷座長)

ありがとうございます。今、とても重要な点についてご意見をいただいたと思います。今回、基本目標②では清須市の「強み」を生かしてということをやっていますので、清洲城周辺とか、ご意見をいただいた観光の拠点みたいなところを結ぶような、またそこに行くようなルートの周りに、つまりそのエリアを区切って業種、例えばサービス業とか飲食業とか、そういった業種を区切って数値をチェックしていくとすると、より施策の効果が分かるのではないかとことを思いましたが、どうでしょうか、そういうことは可能なのでしょうか。

(石附企画政策課主査)

業種を区切ってデータを取っていくということは可能ですし、こちらに出ているデータももう少し細かい分類で捕捉しているところですので、取っていくことは可能ですけれども、ただ、あまり絞り過ぎてしまうと施策の展開として、例えば飲食業に限るとかそういうことではなくて、もう少し小規模の事業者さんというのか、基本的方向の一つ目にもありますが、創業というところで、まずは清須市で事業がチャレンジできるという、そういう環境を作っていきたいというのが大きな趣旨だということですのでお願いしたいと思っております。

(水谷座長)

ありがとうございます。具体的な取組とK P Iの部分に、今後入れていくことも難しそうですね。

(石附企画政策課主査)

そうですね。具体的な取組の中でどういう業種というところまで言えるのかどうかは、施策をどう位置づけていくのかということにもよると思いますので、そこは一度検討させていただければと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。ではご検討いただくということでお願いします。経済といえば、浅井委員いかがでしょうか。

(浅井委員)

もともと私どもの支店は、美濃路街道、美濃路のほぼ中間地点のようなところにありまして、実は私がこの会社に入ってから30年近くになるのですけれども、当時の本店は

今の私どもの支店からはす向かいにあったのですけれども、約 30 年前に私が会社訪問で訪問した時に思った印象というのが、ちょっと言い方は悪いのですけれども活気のない暗いところというのが美濃路の第一印象でした。30 年経って今、何が変わったのかというと何も変わっていないようなイメージで、私も久しぶりにこちらのほうの支店に来たというようなところもあったものですから、思いを駆け巡らせなければいけないのでしょうかけれども、いま一つ変化が見受けられないと感じます。

名倉委員が言われたことと重複もあるのですけれども、いかんせん空き家ですとか、商売をやってみえるところもちょっとままならないというようなところもあって、空き家対策としては、若い世代を取り込もうと思えば、例えば民泊の施設を作ってみたり、それに対してももちろん市役所さんや商工会さんとのタイアップもあるのでしょうかけれども補助金の制度、例えば若い世代の事業を始める方に限定しない補助金とか、私どもでいえば融資、創業関連の融資につなげれば一番良いのでしょうかけれども、その誘致がしっかりした計画の中で成り立てば一番良いのかなと思います。その辺りの活性化の促進が今後できていくようなものが作られれば、一番良いのかなというような感じですね。

(水谷座長)

ありがとうございます。そうですね、難しいですね。元気がないところをどういうふうに変えていくのか。

(浅井委員)

もちろん商店街ですとかそういった対策も、日本全国どこにでもあるのかなと思うのですけれども、その辺りで一つのツールとして何かできればと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。基本目標②について、いかがですか。

(高山委員)

美濃路のお話が出ましたので、個人的な思いつきですけれども、まずは観光案内のような立て看板を各所に設置したりして、それから、例えば下小田井の駅、小田井の市場といった昔は相当大きな、日本三大市場と言われていたところですので、そこからスタートして歩くツアーのようなものを作ってはどうかなと思います。ガイドさんをつけて、美濃路も 1、2 か月に一回くらい通行止めにして、一里塚とか今川義元の首塚なんかを見たりして、清洲城に入って、最後はやはり信長のお墓の総見院で終点、そうするとそこから足がないので「あしがるバス」で駅まで運んでもらうかなとか、そんなイメージで個人的には考えているのですけれども、3 ページの「取組に関する基本的方向」では観光の話も出ていますので、そんなことを思うわけですけれど

も、数値目標の創業比率や事業所数というのは、観光のほうが全然反映されていないような数値目標なのかなというのがちょっと気になりました。

あとは、そういった市の魅力というのは、2ページの右下のところにも資金が市域外から流入するという前提で書かれているのですがけれども、まずは市内に住んでいる人が楽しくなければいけないのかなと、そんな気がしましたので、意見だけ言わせていただきました。

(水谷座長)

ありがとうございます。そうですね、観光に対する数値目標の部分が難しいですね。これだと見にくいというか、なかなか反映されていないですね。どうでしょう、どなたか良いお知恵をお持ちではございませんでしょうか。中田委員、いかがですか。

(中田委員)

数値目標ということでしょうか。

(水谷座長)

はい。

(中田委員)

観光で清須市に来られた方という統計数値というのは、取ることは難しいですよ。

(石附企画政策課主査)

そうですね。観光という視点では、観光の入込客数などを市の単位でデータとして取っているものはない状態です。

ただ、高山委員がおっしゃったことに関しまして、前回、清洲城の入場者数の増加ということ踏まえて、数値目標に休日の滞在人口率の向上という目標を置いていたのですがけれども、そこは今回、レベル感としてはK P I、重要業績評価指標としては清洲城の入場者数は大事な部分になってくると思うのですがけれども、それによってまちがどうなるかという成果指標としてはちょっと馴染まないのかなという判断をさせていただいたところです。結果、それによってまちがどうなるかといった時には、市内で創業する方が増えていくとか、事業所数が増えていくというところにつなげたいという意図がございます。

(水谷座長)

皆様、いかがですか。先ほど、事務局からご紹介がありました、東京の方が地方に移住をされる、それも起業をすると補助金も結構もらえるという、そういったところを狙っていくのであれば、新しい風というのか、新しいエネルギーを清須市の観光、

また創業につなげていけたらそれは素晴らしいなというふうに思うのですが、特化して、例えば東京からの移住者というふうにターゲットを絞って打つ手を考えていくという、そういうことは可能なのでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。今、国が考えているフレームとしましては、東京からのという限定が付くということだと聞いておりますので、意図せずともそういう形になっていまして、もし同調して取り組むとするならば、そういう方向性にはなっていくのかなと考えています。

(水谷座長)

ありがとうございます。先ほど浅井委員から30年前と比べて、活性化という意味ではまだまだというか、変わらずというところが大きいというご意見もいただきましたので、何かしら活気を持たせていくためのインパクトのある施策ができると素晴らしいなと思いました。

皆様、他にいかがですか。

(中田委員)

観光という観点は非常に大事だと思うのですが、清須市内だけではなくて、近隣の市町村にも色々な良い施設があるものですから、その辺りがうまく連携できると良いのかなと、清須市の貝殻山貝塚資料館を担当する立場でそういうふうに思いますので、その辺りを基本的方向の中で入れていただけたら良いのかなということがあります。

それから、数値目標の「市内の創業比率」ですが、目標値が「県平均値以上」ということなのですから、ここはもうちょっと具体的な数値を入れたほうが良いのではないかなと思います。県平均値が下がってくる可能性がありますので、例えば5%といった形で、具体的な数字を入れたほうが良いのではないのでしょうか。その方が検証もできますので、その辺りのご検討もお願いしたいと思います。以上です。

(水谷座長)

事務局、いかがでしょうか。

(石附企画政策課主査)

今、委員からいただいたご意見で、広域の話につきましては、今もやっている部分ではありますが、明記するというのも考えてみたいと思います。

数値目標につきましては、具体的に5%というところで、3ページの左下の図を見ますと2016年時点で市内の事業所数は約2,500事業所ということで、創業比率を1ポ

イント上げるためには約 25 社の創業という計算となります。県平均にしたというところでは、景気の状態もございますのでそこを見ながら、現在低い状況にある創業比率を引き上げるという意図ではあるのですが、数値を設定すると、これから景気が停滞してしまった場合には非常に困難になってしまう可能性もあるのかなということが懸念されるところです。

(水谷座長)

ありがとうございます。清須市の皆様が県平均以上で良いかどうかということですね。景気に左右されずとも私たちは5%を目指すということもあると思いますが、その辺りはいかがですか、皆様。こういう書き方でよろしいですか。

(名倉委員)

創業に関しては、私は商工会という組織で直に事業所さんと触れる中で、やはり創業するというようなところになると、ただ単に率だけの問題ではなくて、資金面ですとか、人材面ですとか、そういったものも含めて事業所さんも創業されるということです。市にお願いすることとしましたら、私たちの立場でお話しさせていただくと、より具体的な例えば金融面ですとか、例えば人材を確保した時に、従業員一人当たりにはいくらかの給付金を1年間支給するとか、おカネを出せば良いという問題ではないのですけれども、例えばそういった具体的な数値を、市役所さんにこれだけの事業所相談があって、これだけのバックアップをしましたよという、そういった具体的な数値があると、こういう数字を出す時にも漠然とした数字ではなくて、これだけ市役所としても事業所さんに対して、創業する方に対してバックアップしましたよという具体的なものが出てくるのではないかなというふうに思います。

なかなかおカネがかかったりする面なので難しい部分はあるかと思うのですが、そういうところまで市役所さんがやっていただけると、我々も「市に相談するとこういう面もあるよ」というような道筋みたいなものが、創業される方に市役所はこれだけ手厚くやっているのだよというようなお話はできるかなと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。そうですね。比率だけではないというところは重要だなと思いました。具体的に何件相談があって、どういうバックアップをしたという、それは数値目標というよりも、もしかしたらKPIとか具体的な施策とセットで見えていくと良いのかなと思いました。ありがとうございます。

どうでしょうか。基本目標②について他にありますでしょうか。基本目標③に移ってもよろしいですか。ありがとうございます。

それでは、基本目標③「人を育て・つなげて地域を活性化する」という目標について、ご意見、ご質問等お願いいたします。

(福井委員)

基本目標①と②は、具体的に色々なことが想起できるのですが、この③だけがモヤモヤとしていて、具体的にどうしたいのかという感じで、率直な意見を言わせてもらおうとそう感じました。

ここで何を指して、どこをゴールとしてやっていくのか、そのために何をしていくのかといったようなところが、目標を取ってみても、基本的方向に書かれた内容を見てもよく分からないので、すみませんが率直な意見を言わせていただきました。

(水谷座長)

ありがとうございます。実は市民参画会議でもここはモヤモヤしていて、何となく人がつながることが大事であるとか、情報発信が大事だけれども誰がやるのかという時に、地域のリーダーが必要だよねとか、そういうように色々たどっていくと、結局は人が大事、リーダーが大事とか、そこに行き当たるというところがありまして、現時点ではこのような書き方になっているのですが、逆にどうしたら良いのかというお知恵をいただくと非常にありがたいなと思っております。

地域にどういう人がいたら清須市は活性化していくのかとか、それはどうやって養成して、養成していけるのだろうかとか、どうやって人と人をネットワークしていくのか、そういったところでいかがでしょうか。普段お仕事で、市民参加のボランティアなどではなく、お仕事で向き合っている皆様方だからこそ分かるという部分かなとも思いますが、牧野委員、いかがでしょうか。

(牧野委員)

立場上、労働組合のほうでも仕事をさせていただいていて、先輩方の20年、30年前の時代から比べると、やはり色々なものが条件的にも整っている中で、今新しく入ってくる組合員の皆さんが何を求めているのかというのはなかなか難しいところがあって、我々としてもつかみにくいところもあります。

そういったものが、多分どこの地域でも同じではないかなとは思いますが、私の住んでいるところでも、そういった活動に自分が参加しているのかといったなかなか参加もしていないですし、様子を伺っていてもそういったことに対して積極的に参加される方も少ないです。PTAの役員を決める時が一番最たるものだと思います。

そういった部分も含めて、今こうやって字面にするのはもっともだとは思いますが、そうしたら誰が良いのか、どうやっていくのかというのは、時代背景からすると相当難しいのではないのかなと思います。なかなか周りのことを思って「私が、私が」というのは、今の時代では難しいのではないのでしょうか。会社の中では一つの業務といった縛りの中で動くので、それはあくまでもサラリーマンであればそこはおカネを

稼ぐところですし、そういったことを考えれば利害関係でいえば合っているのですけれども、地域とかいったところに鑑みると、先ほど来申し上げているとおり難しいような気はします。

(水谷座長)

ありがとうございます。この辺り、皆様にご意見をいただけるとありがたいと思います。順番に浅井委員、いかがでしょうか。

(浅井委員)

私どもの事例ですけれども、若い世代の方の話が先ほどから出ておりますが、かえてシニア世代の方、私どもの取引先は中小の企業さんが結構あるのですけれども、その中で売り上げが上がらなかったり、収益が上がらないというお客様もみえまして、そういった時にシニア人材の方の活用ということで、過去に大手メーカーにお勤めであったり、建築関係であったり色々あるのですけれども、色々なノウハウを活用した中小零細企業へのアドバイスですとか登用ということで、マッチングを行った中で実際にそういった方をご紹介したことがあります。

清須市内にお住まいの方でも、多分そういう方はおみえになられると思うのですね。そういう方が、若い世代に限らずシニアの方も、そういったものに参画できるような場を設けるといってちょっと大げさかもしれないのですけれども、それは実際に市役所さんができるのかといたら、私どものお手伝いですとか、例えば商工会さんのお手伝いとかということも当然出てくると思うのですけれども、そういうマッチングの場を設けた中で、そういったシニア人材の登用ということも、これはすみませんが事業先さんに限ってという形になってしまうのですけれども、そのようなご紹介というか、そういったことも可能であって必要なのかなということを感じました。

(水谷座長)

ありがとうございます。施策とか具体的な事業に入っていく時に、とても分かりやすいマッチングですね。私自身、シニアの広告代理店の方とかにアドバイスをいただくと非常にありがたいというのもありまして、よく分かりました。またもうちょっと具体的に入っていったところで検討をさせていただければと思います。ありがとうございました。

それでは福井委員、いかがでしょうか。

(福井委員)

あまり良いアイデアはないのですけれども、これは基本目標②のところにも関係あるかもしれないのですが、最後の方の資料5とか資料7に事例が出ていまして、実は私、名古屋に来る前の前に茨城県の取手市というところにいまして、取手市の事例

が出ていたのですけれども、これは官民一体となって創業する人を手助けするといったようなことで、例えば駅前にインキュベーション施設、さっきちらっと出ていた例えば空き店舗を利用して、そこで何か商売とか起業したいという人たちに対して、例えば融資の関係とか、新しく何かを始める時に取手在住の企業の方が指導したりとかいったような感じで、官民一体となってそれを手助けするみたいなことをやってきたということで、うちの会社も少し関係させていただいたというところがあったものですから、そういったようなことも人を育ててつなげていく、それで地域を活性化していくという一つの取組になるのかなと思いました。ちょっと具体的なので、方向性みたいなのところはちょっと違うかもしれないのですけれども、ご意見として言わせていただきました。

(水谷座長)

ありがとうございます。空き店舗を活用したインキュベーション施設、指導プラス融資プラスみたいなネットワークを作っていくお手伝いというのは大事だなというのはよく分かります。岡崎市に「Ok a - B i z」という事業者さんが相談するそういうセンターみたいなところがあると思うのですが、そういったものが清須市さんにもできると、もしかしたら事業所さんとしては良いのかなと思いました。その辺り、浅井委員、お詳しいでしょうか。

(浅井委員)

確かに「Ok a - B i z」もそうなのですけれども、もともと元になっているのが富士市に「f - B i z」というところがあって、そこで事業所の活性化を担ってやっていると聞いていますが、岡崎市もすごく有名です。それは本当に、清須市にできればベストかなと思います。

(水谷座長)

そうですね。先進的な取組があるようですので、また具体的にはどうしたら良いのかみたいなのところで、一度勉強すると施策も作りやすくなるのかなと思います。ありがとうございました。

それでは名倉委員、いかがでしょうか。

(名倉委員)

私は商工会という立場でお話をさせていただくと、今回の基本目標の②と③ですね。市の「強み」を生かして経済効果を生む、イコールこれは人を育てて、つなげて地域を活性化するというようなことで、基本的には商工会の会員事業所の活性化が一番利益を生むというようなことになれば、人もかなり流入してくるというのか、おカネも落としていただけるようなことになるといえるような思いがありますので、②と③を一

体化して、この目標自体は福井委員が言われたようにちょっと漠然としているかなとは思いますが、商工会の立場として、経営ということはやはり人育て、こちらのほうが一丁目一番地ということで、会員の事業所さんからアンケートなどを取ると、何を悩んでみえるのかということやはり人育て、従業員さんの人育てですとか、経営者本人の経営力の向上とか意識の向上ということが一番問題とされているようなところがあります。

我々も求人募集とか、そういったものでお手伝いとかはするのですが、実際求人募集の窓口などを設置したりですとか、今のお話の経営者の勉強会とか経営塾みたいなものを、今後商工会としても取り入れていかななくてはいけないのかなと感じています。実際に商工会でそういった勉強会とか経営塾なんかをやってみて、3年とか5年の計画で結果を出されているような商工会も数々あるのですが、特にこの1月、南アルプス市の商工会、そちらの方はそういう経営塾というのか、そういったものやってみて、実際にそこを卒業された方が、3年くらいを通して勉強をやられるのですが、実際に売上が上がったという受講生、9割方の売上が向上されているというようなことで、実際に市の活性化にも寄与されています。

清須市の事業所さんにおいても、商工会がそういったものの一助になればというふうには考えておりますが、こういった問題はかなり時間もかかりますし、骨も折れることですし、まずは事業所さんの意識の問題ということもございますので、そういったものを一つ一つクリアしていったら、本当に小さな結果が出てくるのかなというふうに思っております。

そういったことで、「人を育て・つなげて地域を活性化する」ということで、そういうリーダーというのですかね、実際商工会でも活躍されている役員さんなどはたくさんいらっしゃるのですが、1人でも増やせると商工会の存在意義があるのかなというふうに思っております。

(水谷座長)

どうもありがとうございます。勉強会はやはり最初の第一歩としてはきっと大事ですね。さっきの清洲城の下のお店がガラガラとか、商店街の空き家とかそういったところもあるとすれば、一つどこかに寺子屋じゃないですけども経営とかを学ぶ、起業を学ぶような場を作ったり、地域の事業者さんが先生になって勉強するというような、そういった取組もあるのではないかなと思いました。そういったものをネットで配信すれば、その場に行けないお母さんたちとか、もしかしたら全国、世界の方々に見ていただけるかもしれないですね。

そんな新しい取組をしてみるというのが、もしかしたらこの基本目標③ではあり得るのではないかなというふうに思いました。ありがとうございます。

それでは、すみません中田委員、もう一度になるかもしれませんが。

(中田委員)

具体的な良い意見は持ち合わせていないのですけれども、地域それぞれに課題があると思うのですけれども、地域の課題について地域で解決できるということが一番良いのかなと思います。やはりそういう社会では、そこにいる人たちが輝いて、いきいきとしてくるのではないか、そういうふうに思います。

大変漠然としているのですけれども、地域の方が地域で解決していくには、やはり指導者というかリーダーですね、それぞれの分野でリーダーが必要です。そのリーダーをどう育てていくのかということで、その辺りは行政の方で講座を開催したり、生涯学習講座みたいな形になるのだとは思っているのですけれども、そういう講座で各地域、各分野のリーダーを育てていって、そのリーダーたちが活躍できる場を与えていく。そのリーダーの方が地域の住民を巻き込んで、ムーブメントというか、課題を解決していく波をつくっていくということが、地域コミュニティをつくるということになってくると思うのですけれども、あくまで理想論で漠然としておりますが、県の生涯学習を推進する立場としてそういうふうなことで、何か具体的に言えれば良いのですけれども、すみませんが感想です。

(水谷座長)

ありがとうございます。私の中ではイメージできてきたところではありますが、やはり学びの場は大切だということと、その拠点となるところをどこかに設けたら良いのではないかな。また、その場でリーダーを養成しながら、地域の問題解決をすることを考えながら、地域の人と仲良くなりながらという、そのストーリーというのはありなのではないか、また可能なのではないかなと思いますので、今後具体策を検討する時にまたご議論いただければと思います。ありがとうございます。

では、この基本目標③について、小川委員、いかがでしょうか。

(小川委員)

特にきちんとした意見があるわけではないのですが、基本目標③の「人」というのは、私はこの三つの目標の中で一番重要だなと、中身は漠然としているかもしれないのですけれども一番重要だと感じました。

資料を前もって頂いたので、資料を読ませていただく中で、清須市に住んでいる人たちは本当に清須市を愛しているのだなということがすごく伝わってきまして、清須育ちの人がたくさん育っていけば良いなと思いました。

基本目標①とその辺りがすごく重複していて、先ほどから出ている結婚率とか、子育て支援とか、教育とか、そういったことの充実で人が育ち、そして人が増えていくことによって基本目標②のところも発展していくのかなというふうに、全てが繋がっていくのだなと感じていますので、非常に重要なテーマだなと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。まさに若い世代であったり、シニアの方であったりが交わり合いながら、連携をし合いながら、そして経済に影響を及ぼしつつ、住んで良いよねというまちになりつつという、本当に相互関係というか、それこそがまち・ひと・しごと一体となって活性化するというところで、重要なのだろうなということがよく分かりました。

それでは、高山委員、いかがでしょうか。

(高山委員)

ありがとうございます。私の意見としては、基本的方向の三つ目にあるところですが、けれども、まち・ひと・しごと創生の関係でも、市民参画会議ですごく良い意見がたくさん出ているなと思いますので、これをもっともっと、公募でこれだけ皆さん来て意見を言ってもらえるなら、もっとどんどん拡大して、色々なパターンで継続したり、大々的にやったり、あるいは地域ごとに分けてやったりとか、色々なパターンで拡大していけばいいのかなと。そうするとすごく良い意見が出てくるのではないかなと思います。

欲をいえばネーミングをぜひ「清須会議」にさせていただきたい。そうすると基本目標②とも連動してくるのかなと、そんな気がいたします。

(水谷座長)

「それもらった」って感じじゃないですかね。「清須会議」、素晴らしいですね。ありがとうございます。

先ほど小川委員からもおっしゃってくださったと思うのですが、清須市に生まれて、清須市が大好きな方々が本当にいらっしゃって、熱意もおありなので、そういった人財というか、宝物のような方々が、継続的に集って勉強して、また影響を周りに及ぼしていくということが基本目標③なのかなというところは、ぐるっと一周お聞きして何となく見えてきたところがございますが、ご意見を色々いただいて、事務局、いかがでしょうか。

(石附企画政策課主査)

皆様からご意見をいただいて、我々が想定しているイメージと同じイメージを持っていたらいいのかとは思いますが、例えば基本目標のネーミングがどうなのかとか、この取組の方向性がどうなのかという部分は、少しまた考えなければいけないのかなという部分はありますが、基本目標の①・②ともに、やはり人というのが当然関わってくるところで、私どもも今色々な養成講座をやっています、例えば基本目標①の防災のところでは、地域防災リーダーを養成するという講座もやったりするのでありますが、そういったことを想定した方向性ではあるのですが、

養成して終わりではなくて、その方たちが実際に地域でどんな活動をしていくのか、あとは地域同士がどうつながるのか、そういったことをイメージしてこの基本目標を置いていますので、基本的にはこの形でどうかなどは思っているところです。

(水谷座長)

ありがとうございます。ここはもっと具体的に練っていけるところかなと思います。もう少し時間がありますので、中身については1年くらいまだあるのですよね。

(石附企画政策課主査)

はい。まだありますので、基本的に基本目標③はこの方向性で検討をしていくということでしょうか。

(水谷座長)

よろしいでしょうか、皆様。方向性としては良いかなというところで、よろしいですかね。

「異議なし」の声

ありがとうございます。

では、基本目標③はこれでおしまいということで、他に全体で、骨子案につきまして一通りご意見をいただいたところですが、最後に計画全体の構成なども含めて、骨子案全体でご質問、ご意見がございましたらお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、10分ほど早いですが、以上で本日予定されていた議事は全て終了いたしました。

最後に、ご意見、ご質問等がありましたらお願いします。

(小川委員)

全然この会議とは違う話ですけれども、この議論をさせていただいている中で、清須市の観光協会のホームページを何度も見させていただいているのですけれども、あれは完成を待たずして早く直したほうが良いかなと思ひまして、というのは、なかなかというか全く魅力が伝わってこないというか、よく見るとすごく良いのですけれども、写真が小さくて見にくいので、あのホームページからは魅力は伝わらないだろうと感じました。清須市には屋根の神様とか、すごく小さい写真が載っていたのですけれども、すごく良い特色があるのにもったいないなと思います。

そのホームページの中で、守口漬の会社は大口町だと思っていたのですけれども、清須市にあるということとそのホームページで知って、その宣伝とかも全くできてい

ないので、もっと積極的に情報発信や広報をしたほうが、それだったら今すぐにもできることなので、やっていったほうが良いのではないかなと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。とても大事な視点ですよね。今から変えられるところは変えていったらと思うのですが、すみません、どなたか情報発信について、こうしたら良いよとか、この人が詳しいよとか、そういった情報をお持ちだったりしませんでしょうか。

(小川委員)

ふるさと大使とか、観光大使とか、各市町村に色々な著名な方がいらっしゃるりするのですが、清須市の図書館も鳥山さんの関係ですごく人が増えてたりとかしているんで、もう少しうまくそういうことを活用できたら良いのではないかなと思います。「夢をかなえるゾウ」の水野さんとか、色々な著名な方がいらっしゃるし、地元にも名士の方がいっぱいいらっしゃって、すごく良い人がいっぱいいらっしゃると思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。情報発信は基本目標③に入っているところがありますが、どうでしょうか。

(石附企画政策課主査)

今、小川委員からいただいたご意見で、我々もそれに対してはすごく感じているところでして、基本目標②の部分ですね。ブランディングとか、そういったところでは今ご意見いただいた部分は想定しているところです。そこで受け止める形でお願いできればと思います。

(水谷座長)

分かりました。基本目標②のほうですね。ありがとうございます。ぜひ情報発信していきたいと思いますので、この中でも議論していきたいと思います。ありがとうございました。

いかがでしょうか。他に全体について、またそれを越えたところでもよろしいですが、ご意見よろしいですか。

どうもありがとうございます。

それでは、以上をもちまして平成30年度 第2回清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を終了いたします。皆様どうもありがとうございました。

それでは、事務局から事務連絡をお願いいたします。

4 閉会

(河口企画部次長兼企画政策課長)

皆様、どうもありがとうございました。色々なご意見をいただきました。

本日皆様からいただいたご意見につきましては、総合戦略の骨子案、ご意見等を踏まえた修正を行った上で、年明けの1月29日に予定しております第2回の総合計画審議会において、総合計画の後期基本計画とあわせて検討を進めていきたいと思っております。総合計画審議会の委員でもあります水谷委員、そして高山委員におかれましては、よろしくお願ひしたいと考えております。

なお、次回の推進会議につきましては、平成31年の5月頃を予定しております。また詳細につきましては、改めましてお知らせのほうをさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

本日は、長時間にわたりご審議を賜りまして、どうもありがとうございました。

以上で終了とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

問 い あ わ せ 先	企画部 企画政策課 電話 052-400-2911 (内線3251)
-------------	---------------------------------------

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

署名委員 中田 勝徳

署名委員 小川 由美子